



安心・こころを育むまちづくりの手引き

# 防災 まちづくり 夏版

発行／寺言問を防災のまちにする会

1993.4.1

## ホップ／現地視察

好天に恵まれた12月17日、一言会の理事たちは視察のために高田製薬跡地の中に入ってみました。視察は午前と午後2回に亘って行われました。地面の様子、日陰の位置、周囲の建物との関係などを見て歩き、「この部分は陽当たりがいいから、くつろげる広場にしたい」「ここには塀か生け垣が必要だ」「ここには大きな樹を植えたい」など、それぞれ思い思いに利用や整備のイメージを膨らませていました。

「整備するまでの間、開放して子供たちの遊び場としてはどうか」との意見も出されていましたが、用地の中には工場時代の基礎が今も残っており、ポロポロになったコンクリートや煉瓦の基礎から錆びた鉄筋が飛び出していたり、雑草の影に隠れて地面に穴が開いていたり、子供が遊ぶには危険な状態です。整備を開始するまでは、このまま閉鎖しておいた方が良さそうです。

## ステップ／講師を招いて勉強会



▶プライム一級建築士 事務所 西島正樹さん



▶子どもまちづくり研究所の 内藤裕子さん

1月27日の担当理事会では、プライム一級建築士事務所の西島正樹さんと、子どもまちづくり研究所の内藤裕子さんを招いて、広場づくりの勉強会を行いました。西島さんは、埼玉県蕨市の仁中歩公園を、住民参加のワークショップを通して設計した方です。西島さんが設計した仁中歩公園は、高田製薬跡地と同様に高密の住宅地にあり、住民によるまちづくりの取り組みのひとつとしてワークショップが企画されたそうです。

「夢の公園」と題して、子どもたちに思い思いの絵を描いてもらったり、地面の舗装に使う「デザイン陶板」に町の人たちの手で木の葉を貼り付けたりと、町の人たちと一緒にアイデアを出し合い、紹介してもらい、高田製薬跡地の整備に向けて参考になることがたくさんありました。

内藤さんは、自然の生態系を活かした「エコロジックパーク」について詳しい方で、ロンドンでの整備事例を基にエコロジックパークの考え方について、

①開発によって自然を失ってしまったことへの反省からエコロジックパークが考えられた

②市民のボランティアによって手づくりで整備されている

③主に学校の課外授業など子どもたちの教育の場として利用されている  
といったことなどを紹介して頂きました。近年、荒川区の自然公園などが注目を浴びていますが、エコロジックパークをつくるには広大な敷地が必要で、高田製薬跡地につくるのは難しそうです。しかし、考え方は大変参考になりそうです。

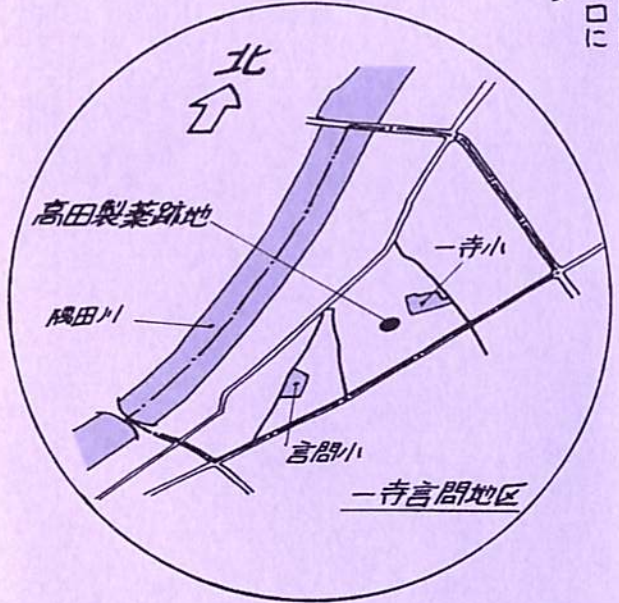
# 製薬跡地・ただいま検討中 その式



▶工場時代の基礎がポロポロになっただまが残っています



▶隣の家の木の突がさびていました





▲高田製菓跡地の様子

## ジャンプ！ 今後の検討方針

一言会は、今後用地周辺の方々にも相談しながら、担当理事会でワークショップなどを行い、利用と整備のイメージについてたたき台を作成しようと考えています。このたたき台を基に、地域のみなさんのアイデアや意見を出してもらって、具体的な利用策の検討を進めていく予定です。

## 三とも通り

# 電柱の移設に併せて路面の整備も

三とも通り担当理事会は、三とも通りを安全に通れる道にしていくために、言問小学校前の部分の電柱移設を検討してきましたが、5年度には実施されることになりました。さらに、「これに併せてガードレールや路面の改良もした方がいいのではないか」との意見が出されたため、引き続き担当理事会では、ガードレールや路面の整備を検討しています。

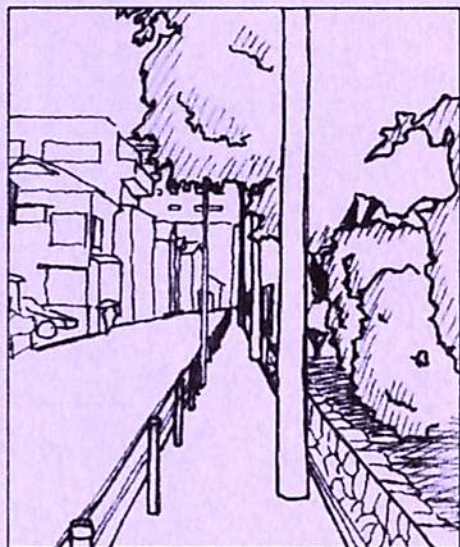
6月に行った見学会での事例も思い出しながら様々なイメージを膨らまし、意見を出し合いました。ガードレールや路面を改良するということは、三とも通り全体の交通問題にどう対処していくかという課題と大きく関わってきます。そのため、「通りの一部分だけがきれいである全くなっても、他の部分が危ないままで効果が少ない」との考えが多いので、言問小学校前の部分は、将来的な三とも通り全体の整備につながる可能性を考えながら検討しようという方針になりました。具体的な整備のイメージについては、「ガードレールはやめてボラード(車止



▲通れないよ……



▲現況



▲電柱の移設で通りやすくなります  
さらにガードレールや路面の改良も検討しています

め)にしたい」とか「歩行部分だけカラー舗装にしたい」など色々なアイデアが出されていますが、今後は区と共に、現実的なイメージを検討していくことになっていきます。

## 私がまちづくりスタッフです

その28

墨田区都市整備部  
開発促進室  
馬場 玲子さん  
(一言会事務局)



九州は福岡県生まれ。都政に憧れて上京。昭和44年、墨田区役所に入庁以来、建築畑一筋。59年には、課長になる。

そもそも馬場さんと一寺言問のかかわりは古く、まちづくりが発足したばかりで、町の住民にまちづくりそのものが、理解されにくかった時、劇団一言座で上演した芝居にも出演するなど、一寺言問に熱いエールを送ってきた。

馬場さんが一寺言問の担当課長になって三年、まちづくりは、住民の理解と協力のもと確信的な成果を上げる「寺島のみち」「金古路「はとほっと」と整備は完成し、建築学会文化賞の受賞、マスコミで一言会の活動が報道されるなど、充実した時期を迎えた。

「今までは、住民と行政がお互の立場を理解した上で、綱の引き合いをしてきた。それでうまくいったのだけれど、これからは、もっと進んで、自分の町は自分で作る。住民の自治を目指して、一言会が脱皮してゆくのが理想だと思う。行政は一步下って、後から応援する。一言会には、その力がある筈ですよ。」

ほっそりした体つきに、髪を短く切って、ボーイッシュとも見える容姿の馬場さん、そのおとくに、九州女の情の深さを隠していらっしゃる。(純)

### いちでらことい 一寺言問/防災まちづくり瓦版

第30号 平成5年4月1日発行

編集/一寺言問を防災のまちにする会・編集局  
高原純子・若木菊枝・植竹モト  
阿部洋一・明間 藤・中村淑子

編集協力/マヌ都市建築研究所

発行/一寺言問を防災のまちにする会・事務局

墨田区まちづくり事業推進部地域整備課内  
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261

